

1 運営方針及び重点分野	(22) 優れている4 妥当2
<p>①平成13年度岡山県水産振興プランの目標が明示され、その目標達成に向けた調査・研究分野は適切に設定されている。②漁場環境の改善、水産資源の管理および栽培漁業に関する調査研究に対する取組みがなされ中期目標に沿った運営方針と複数年度にわたる重点化が機能している。③水産資源回復と持続的利用、養殖業の安定化、安全安心な水産物の安定供給に関する試験研究に積極的に取組み、時代のニーズを的確にとらえた運営方針と重点分野は優れたものといえる。④平成19年度が最終年度であった重点課題の調査研究もそれぞれ優れた成果をあげている。⑤一方、近年における水域環境の変化が水産業に与える影響を最小に食止め新たな方向を模索するための研究も重点化されてよいと思われる。⑥特に瀬戸内海の漁業生産にとって不適切な水質を改善して生産力を向上させる研究に期待でき、環境破壊や食の安心安全を考える上でも水産資源の研究・調査・技術開発は今以上に重要になると考えられ県全体で取り組むべきと考える。</p>	
2 組織体制及び人員配置並びに予算配分	(14) 妥当2 見直しが必要4
<p>①組織体制は妥当であり、人員配置も研究が多岐に渡ることを考えれば十分とまでは言えないが概ね妥当とみなせる。②予算配分で人件費の割合が高いが、組織運営にとってアルバイト職員が欠かせないことからやむをえないといえる。③研究者一人あたりの研究費は試験研究機関としてやや不足で、これを維持し少なくとも削減されないような対策が必要である。④近年の計測技術の進展は目覚ましく、常に最新鋭の高精度計測器を導入して良質かつ高精度データで研究高度化を図るとともに水域環境と水産業に関する有意なデータを一般に広報することは公的試験研究機関に対し近年とみに要請が高まっている。⑤関連して、機器導入のための研究費増額も望まれる。県財政上の制約はあっても調査・研究の予算は確保して充分成果の上がる事業を推進されたい。⑥以上、組織体制や人員配置に問題は見当たらないが予算面で研究開発を重視していただきたい。⑦時代に即したニーズに的確に対応した試験研究に取り組まれているものの試験研究を高度化かつ充実させるためには、人員補充や研究費増額の見直しは必要である。</p>	
3 施設・設備等	(13) 妥当1 見直しが必要5
<p>①水産試験場（特に本場）の建物、施設・設備の老朽化が目立つため今後検討が必要である。高度な研究活動の継続・発展には現状の物理的な研究環境の整備と改善は不可欠である。②現状では十分な試験・研究は成しえないものと思われ最新設備、機器を導入して海況予報や種苗生産にも取り組んでもらいたい。③水産試験場と栽培漁業センター1ヶ所でのよいという意見もある。要覧では本場は昭和42年、栽培センターは昭和53年に建てられた施設で老朽化が激しいようである。その中で、現在の業務を遂行していることに敬意を表すが、今後さらに高度化と思われる試験研究の充実を図るためには機器や設備の充実のほか施設の全面改修か建替えの見直しも検討されてよい。</p>	
4 研究成果	(23) 優れている5 妥当1
<p>①多くの事業で当初の目標あるいは目標以上の成果をあげている。②平成19年度河口域環境改善事業、養殖のりの赤ぐされ病予報技術開発、新素材を利用した漁場改善事業およびオニオコゼ放流効果調査に関する研究成果はいずれも新しい知見を提供するものであり、また具体的方策を考える基礎資料としても、高く評価される内容である。③イタボガキ生産技術及び餌料生物の浄化設備の普及あるいはカキ浄化技術の確立にも期待がかけられる。環境問題や水産資源など全般に広く調査・研究がされ成果は全般に優れたものがあるが、成果を社会に還元し、実用化に向けた取組みが必要という点にも留意されたい。</p>	

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、	(18) 優れている 2 妥当 2 見直しが必要 2
<p>①水産試験場の活動内容は広く県民にアピールする必要がある。そうすることで、見学や体験学習の機会が増えて関心が高まり、漁業や海に関する啓発活動に繋がる。②すなわち水産資源と水域環境の実情と変貌、また調査研究成果を分かりやすく公表することは一般市民の環境と漁業への関心を高め長期的な水産業の持続の観点で基本的に重要である。③県民の食を支える内海、内湾漁業とその水域環境の変化に対する県民の関心は高い。④水産試験場は施設見学、漁業技術、ノリ・カキ養殖、食中毒、水温環境等に関して、積極的に相談を受け、指導や情報提供されていることは高く評価される。⑤加えて海況データの密な情報提供にも期待している。なお近年は相談件数が少なく、見学や視察も17年度から19年度にかけ減少傾向にあると思われる。この点については見直しが必要であろう。⑥本来の試験研究のほか、県民や漁業者に技術相談などを行っているが、実施状況は妥当と考える。</p>	
6 人材育成	(19) 優れている 2 妥当 3 見直しが必要 1
<p>①試験研究の多様化、高度化に対応した人材育成」に対し、積極的に取り組まれている点は優れている。②今後も可能な限り専門技術研修会等に積極的に参加され職員のさらなる資質向上が望まれる。③具体的技術面の研修だけでなく、環境あるいは生態系変化など環境問題と、それに対処するための一般的手法や考え方を広く研修する内容もあってよい。④技術向上にとどまらず経済意識を持って業務を遂行できる人材も養成していただきたい。</p>	
7 他機関との連携	(18) 優れている 2 妥当 2 見直しが必要 2
<p>望ましい連携事業が実施されている。大学との共同研究を推進し大学院生受入れなど学生の水産業、水域環境への関心を高め指導することも考慮すれば研究データ生産性も高まるので研究のさらなる活性化につながると思われる。教育機関・漁業系統団体・民間企業との連携強化を図り実用的な研究成果の創出をお願いしたい。試験研究の効率化を進めるために、積極的に他機関と協力体制をとって連携している点は、優れている。今後、いっそうの連携を期待する。また今後、試験研究の内容によれば、異業種との連携・協力が必要となる。</p>	
8 県民への情報発信	(19) 優れている 2 妥当 3 見直しが必要 1
<p>適切な方法で情報発信は行われている。今後、漁業関係者だけでなく生徒・学生を含む幅広い県民層に水産試験場の取組み研究成果をわかりやすく知らせる必要がある。HP「水試だより」は、内容が具体的に分かりやすく充実しており、優れた広報活動である。欲を言えば牛窓沖の海水温と潮位の情報発信をさらに充実させ数値データの公表が望まれる。これは水域環境の変化を知る基本データであり、長期にわたるものであればあるほど重要性和関心は高まる。漁業者にとどまらずブレッジャー・ファミリーが利用できる情報発信も視野にいれてはどうか。インターネットの普及でホームページのアクセス数は増えていると推察されるが、より積極的に情報発信すべきだと思う。情報発信は水産試験場の存在価値を県民や漁業者へアピールするものもあるともいえる。今後も充実した内容のある情報提供を期待する。</p>	
9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 優れている 妥当 見直しが必要 全面的見直しが必要

限られた職員、予算、施設設備の中で運営並びに調査研究が進められ、一定以上の成果を上げていることは高く評価される。今後も継続して調査研究が行われ未解決部分の解明と、成果の実用化へ向けて発展を期待する。とりわけ水資源の維持、養殖業の安定化、水域環境の保全と改善を目指す運営方針に沿った平成19年度調査研究の成果は内海、内湾の水産業及び水域環境の変化を考えていく上で新たな知見を与えるとともに具体的な改善方策を考える上でも基礎資料となりうるものであり、これも高く評価される。

ただし、成果は得られても、なぜ、そうした結果になるかについての議論が必ずしも尽されていない場合も見受けられる。多くの場合、その原因は水温・水質・濁度等の環境因子の変化に帰着されるが、特定の環境に至る経緯については、限られた資料に依存する難しい議論を経なければならず、結果論で終わる場合も少なくない。地域環境変化がグローバルな諸変化に遠因があるとしても、やはり本試験場における研究に「水の流れ」の変化からみた議論が付加されなければならないと思われる。本地域には海洋学を専門とする研究者は少ないが、できるだけ、いろいろな大学や研究機関の気象学・海洋学の専門家が参加する研究が進められ、試験場の研究成果に対して意義を深め、環境変化の理由付けを明確化させる方向の総合的な研究が今後必要になってくるものと思われる。

陸・海・汽水域で進行する環境変化は、そのまま、水資源維持と養殖業の安定化に深刻な影響を与えると憂慮される。水産試験場で長年蓄積されておられる水環境データは環境変化を示すバロメータとして極めて貴重である。水産試験場が将来にわたり内海の環境モニタリングの基地として観測項目をさらに強化され基礎データを提供され続けることは内海の水域環境改善事業の方策を策定する上で、また、地域市民の環境意識を高める上でも極めて重要な意味があると思われる。現在以上に、成果を分かりやすく県民に知らせることが必要ではないかと思う。

水産振興プランの目標達成のため、水産資源の回復と持続的利用、養殖業の安定化、安全安心な水産物の安定供給に関する試験研究に積極的に取組み、時代のニーズに沿った運営方針と重点分野で、このニーズに的確に対応した試験研究に取り組んでいるが、多様な試験研究を将来、高度化し充実させるためには、人員の補充や研究費の増額なくしては難しいのではないかと。施設は老朽化が激しいため、多様・高度化してゆく試験研究に対応しがたい状況であると思う。そのため、機器の整備・充実、それにとりなう施設の全面改修あるいは建て替えが必要であろう。

研究成果は全般に優れているが、成果を社会に還元し実用化に向け取り組んでこそ、成果が実ったといえる。多様化、高度化する試験研究に即座に対応した人材の育成に積極的に取り組んでいることは優れており、今後もいっそう進めていただきたい。さらに試験研究の効率化や充実を進めるため積極的に他機関と協力体制と連携を図っていることは評価できる。今後、いっそうの連携を期待する。また、試験研究の内容によれば、異業種との連携・協力も必要となろう。情報の発信は最新の成果やリアルタイムの情報を県民や漁業者に提供するものであり、今後も充実した内容のある情報提供を期待する。

県財政の深刻な中、目標達成に熱心に取り組まれていると理解する。厳しい状況ではあるが、創意工夫と使命感をもって海や川を利用する人々のため励まれることを切望する。評価単位となる事業(重点課題)については新規・継続と経費、相互、そして前後関係、進捗マップを共有し、相互データ利用とフィードバックによる軌道修正を積極的に行うことで、より完成度の高い事業に高めていただきたい。

評価項目毎に纏めると、2の体制や3の施設に問題はあっても、1の方針や4の成果についてはメンバーの努力で高い評価を得ている。しかし、多様化した対象と現象、時間・空間・経済規模、社会的要請の程度の違いにより、5～8の付帯評価項目は委員の意見も集約されていない。この不公平感を避けるために試験研究のみならず萌芽・企画研究や基盤研究などいくつかの形態を設ける。あるいは指定課題に複数申請がなされた場合には一つを採択するのではなく時間を限り競争するなど、より計画的・組織的に研究を展開していくことが考えられる。